

むきばんだ花だより

11月

2017. 11. 11



カクレミノ(テングノウチワ、ミツデ、ミツナカシワ)



マリアウのカタタナバ(マコシジ)、ヤブコウジ(サクラソノ科)・ヤブコウジ属



モフ(丹)・モフ(丹)・モフ(丹)属



ネミシロダモ、クスノ科・シロダモ属。シロダモの果実は普通果ですが稀に黄色な果が成りネミシロダモと呼ばれますが、シロダモの品種とされています。

◎カクレミノ(隠蓑) ウコギ科・カクレミノ属

常緑高木、別名 テングノウチワ、ミツデ、ミツナカシワ、
 ○名前由来:葉の形を隠すための蓑に例えた名前。
 ○分布:本州(千葉県南部以西)、四国、九州、沖縄、暖地の沿海地でシヤタブノキの常緑樹林内に多く生える。○カクレミノの葉は変化が大きく、芽生えればかりの幼苗の葉は切れ込みのない葉で、幼木になると深く3~5裂し葉柄も長くヤツデと似ています。成長するにつれ上部に着く葉は葉柄は短く、切れ込みも浅いが、それより下位の葉は葉柄が長く、上の葉と重ならない様に付く、下の葉ほど切れ込みは深い傾向があります。(太陽の光を上手に使っているようですね!)大きく成長した木は、全縁で長楕円形の葉ばかりになり、とても同じ種であるとは思えない姿に変身します。この状態に成長した木は、花を付け、実を結ぶようになります。花は枝先に球状に集まった散形花序を上向きにつけ、両性花と雌性花が混じって咲き、花色は黄緑色、果実は扁球形の核果状(液状果)で先端に果柱が残ります。晩秋~冬にかけて黒紫色に熟しヒヨドリなどが好んで食べます。●大気汚染、潮風、乾燥に耐え、害虫も少ないのですが、寒さにやや弱く、半日陰を好みます。縁起の良い木として造園(目隠や庭庭、坪庭、風水的には北側が良い)に良く利用されます。○花言葉:「ずる賢い」~(天狗を騙して隠れ蓑を手に入れ、色々と悪戯をした、彦一のおとぎ話からの連想。)・「耐え忍ぶ」~(日陰や乾燥に強く、他の木が育ちにくい場所にも良く育つことから)。

★撮影日:2017,11,11, ★撮影場所:洞ノ原地区



ナナ(シロワグミ)・ワグミ(ミミ)・ワグミ(ミミ)属



ヤブコウジ(ジュウリウ)、サクラソノ科・ヤブコウジ属

◎ヒサカキ(枳,姫神,非神)、モッコク科(ツバキ科)・

ヒサカキ属 常緑小高木、別名:アキシバ(灰汁柴)、ビシヤコ、ヒシヤシヤギ、シヤシヤキ、ビシヤシヤキ、クサカキ「古名」比佐加岐。○分布:東北地方以南の本州、四国、九州、沖縄に分布。目立たないが照葉樹林帯の二次林から極相林まで広く生育する。木は枝分れが多く、細い歯歯のある葉を密に互生し長楕円形から楕円形、表面は深緑色で光沢がある。3~4月に葉腋に1~3個の小花が多数下向きに咲く。雄花は雌花より少し大きく直径約5mmのコップ状、白色又は淡黄色、稀に紅紫色のものもある。花期には独特の香り(臭気?)を放つ。この芳香は一般的な匂とは異なり、都市ガスやたくあんに似た匂です。果実は球形の液果で10月頃には黒く熟し真冬まで残り、小鳥に食べられた種子が散布されます。○名前由来:サカキ(神)に非ず、ヒサカキ(非神)と云われます。またサカキ(神)より葉が小さいので、姫神(ヒサカキ)とも云われる等、諸説があります。○性表現について:この植物の性的なシステムは良く分かっていなくて、雌雄異株と図鑑に記載されていることが有ります。実際には雄花と雌花の他に両性花が有り、個々の株ではこのどれかだけを付けるものは多くはないそうです。また山火事や伐採に依って性転換すること知られています。○人との関わり:葛・仏壇への供え(仏さん柴)や玉串(神が手に入らない関東地方以北や、年間を通し艶のある深緑色の葉を付けるのでサカキ同様に縁起の良い木とされ、神棚へ供える。)として宗教的な利用が多く、栽培されることも良く有ります。○花言葉:神を呼ぶ・内気・治癒。

★撮影日:2017,11,11, ★撮影場所:洞ノ原地区



ヒサカキ(ヒサカキ)・ヒサカキ(ヒサカキ)属



ヒサカキ(ヒサカキ)・ヒサカキ(ヒサカキ)属



ヒサカキ(ヒサカキ)・ヒサカキ(ヒサカキ)属



サカキ(サカキ)・サカキ(サカキ)属



◇説明◇ヒサカキとサカキ~そもそもサカキとは?

●サカキ(神)はモッコク科・サカキ属。ヒサカキ(枳)はモッコク科・ヒサカキ属で属は違いますが、宗教的な利用では深い関係が有ります。○サカキは神社で祭られるのはもちろんのこと、家庭の神棚にも供えられる神(サカキ)。日本神話で「神のいる場所に神をたてた。」と云う古事が元になっているそうです。漢字では「木+神」=神と書き「神事に使う木」の意味です。○神の語源は諸説があり「神と人間の境界にある木→境の木」・「常に葉が緑で染える→染える木」或いは神聖な木を意味する「賢木」が転じた説があります。もともと神は固有の植物名ではなく、後に特定の木を指して神(サカキ)と呼ぶ様になったそうです。○古くからサカキが生育していない地域では、サカキの代用品でまかなわざるを得ません。この地方は神棚に祭る植物を「サカキ」と呼ぶ様になりました。つまり、地方によって「サカキ」と呼ばれる植物が違ってきたのです。地方に依って「サカキ」は、ヒサカキであり、ツバキであり、楠であり、さらには杉であったりする地域もできたそうです。この様な事情のため、本来のサカキに、「本」とか「真」を付け「本神・真神」として区別する事にしようです。○時が経って本神が全国に流通するようになり。お客さんが「サカキ」を自由に選ぶことが出来る時代になりますと、ある地域で「サカキ」と思われていたものが、他の地方では「サカキ」で無かったりすることが起こる様になったそうです。~おわり~

